

## 英語総合演習 休校中の課題⑦ 5月22日発行

### 和文英訳

次の日本語を英語に直しなさい。

ノートを1冊用意して、問題の和文を書き、その下に英訳を書きなさい。

翌週に解答例と解説を示すので、赤で訂正をすること。そのノートは学校が始まってからノートを提出してもらいます。

### 5月22日の分

3 1) 図書館から昨日借りてきた小説を読み終えたので、今はすることがない。

3 2) この薬を飲んで寝ていれば、たぶん2～3日でよくなっていたのに。

3 3) 先生は、このまま出発すると途中で雷雨に見舞われる危険があるので、しばらくここで待った方がいいと言っています。

3 4) 不老不死は人間の夢である。しかし、もしこれが実現したら地球は人であふれてしまいます。

3 5) アンはうれしそうな顔をしているね。何かいいことがあったに違

いない。

### 5月15日分の解答例と解説

26) 先日描いてもらった地図のおかげで、迷わずにここまで来ることができました。

26) Thanks to the map you drew me the other day, I managed to get here without getting lost.

「できました」は could か？ could は can の過去形だが、現在では can とは独立した1つの助動詞で、can の控えめな表現として、「(やろうと思えば) ~できる / ~かもしれない」という意味になる。これは should についても同様。Should はもともと shall の過去形だったが、今では独立した助動詞 (～すべきだ / ～のはずだ) として使われる。だから could = 「で

きた」と考えるのは、should = 「すべきだった」と考えるのと同じくらいおかしい。

また日本語の「できた」は、ふつう「能力があった」ではなく、「やった」の意味にすぎない場合も多い。例えば本文も「来ることができました」の代わりに「来た」といっても意味は変わらない。だから日本語の「～できた」は動詞の過去形で十分その意味を表すことができる。もし「何とか～できた」という気持ちを表したいときは<managed to (V)>を用いる。

なお could を過去の意味で使う例外的な場合は以下の通り。

- ①過去の能力 \* 過去の一定期間を明示する副詞が必要。
- ②否定文 \* 過去であることを明示する副詞が必要。
- ③時制の一致 \* (例) Tom said that he could …

「道に迷う」は get lost あるいは lose one's way を用いる。本文では「迷わずに」だから前置詞の without ～「～なしに」と組み合わせて使う。

「～のおかげで」は thanks to ～を用いる。この表現は thanks to で1つの前置詞だと考える。Because of ～を用いることも可能だが、こちらは単に原因や理由を示す語句。一方、thanks to ～は、あとに「恩恵を被っ

た、ありがたかった」という内容の分が続く。

地図などの「線画を描く」は、write「(文字を) 書く」ではなく draw を用います。ここでの「地図」は特定できるので、the が必要。また、「先日」は<the other day>が普通の言い方。「描いてもらった」という日本語に引きずられて受動態にするのはダメ。このように「誰にしてもらったか」がはっきりしている文では、その「誰」を主語にして能動態を用いる。なお、目的格の関係代名詞は口語的な文では省略するのが普通。

27) この夏に2週間の休みを取り、妻とヨーロッパ旅行に行きました。

27) Last summer I took two weeks off, and went on a trip to Europe with my wife.

「この夏」は文脈に応じて

①last summer 「この前の夏」

②this summer 「今迎えている夏」あるいは「今年これから迎える夏」

の2種類が考えられる。ここでは①が妥当。よって全体の時制は過去と

なる。

「2週間の休みを取る」は<take two weeks off>を用いる。「1日休む」なら take a day off となる。また、具体的な数字を言わずに「休暇を取る」という場合は「数日間休みを取る」と考えて take a few days off とするか take a vacation とする。

「学校を休む」「会社を休む」などの「休む」は、don't go to school / don't go to work で十分。

(例) Yesterday I didn't go to school because I felt sick.

「昨日は気分が悪かったので学校を休んだ」

また、I was absent from school / I missed school でも OK。

具体的に目的地を示し、「～に旅行する」は、<take [go on] a trip to ~> が一般的。「月旅行」なら a trip to the moon となる。Travel to ~と言っても十分に通じるが、少し大げさに聞こえる。

ただし、場所を明示せずに単に「旅行する」という場合には take a trip はやや不自然になるので travel を使う。なお trip を動詞で使うと「つまづいて倒れる」という意味になってしまうので、ダメ。

「ヨーロッパ」は「ヨーロッパ諸国」と考えて、European countries とすることも可。

28) ボブはずいぶんと変わっていたので、このまえクラス会で会ったときに彼だとわからなかった。

28) Bob had changed a lot, so when I saw him at a class reunion, I didn't recognize him.

「変わっていた」の時制はどうするのか？一般的に、文は起きた順序で述べられる。「①朝6時に起きて、②運動して、③朝ご飯を食べて、④学校に行った」は①→②→③→④の順序で起きたとわかるはず。このことは英語でも当てはまる。そしてこのような場合にはすべて過去形を使う。

「③の方が④よりも前だから過去完了形を用いるのでは？」という人が多いが、もし③を過去完了形にするなら②はどういう時制を用いるのかということになる。「過去過去完了」というものはない。

ところが、ここではクラス会の前に「ボブの変化が完了していた」ことを明確にするため過去完了を用いる。

「人が変わる」「街が変わる」場合は change を自動詞で使う。だから The town was changed. という言い方はできず、The town changed. となる。また「ボブは変わった」は Bob was different from what he used to be. ということも可。

「～に会う」は see か meet か？「～を見かける」なら see ～、「～に会って話をする」なら meet ～。ここでは「ボブだとわからなかった」なので、see が適切。

「クラス会で」は <at a class reunion> とする。Reunion は re- 「ふたたび」、uni- 「1つ」から覚えられるはず。

「～がわかる」は、「昔知っていた人を、久々に見てその人だとわかる」という意味での「～を認識する」は <recognize ~> を用いる。

29) 20年ぶりに訪れた故郷はすっかり変わってしまい、昔の面影をどめていなかった。

29) When I visited my hometown for the first time in twenty years, I found that it was no longer what it used to be.

「すっかり変わってしまい、昔の面影をとどめていなかった」の時制は？

「変わってしまった」は「訪れた」より以前だから、過去完了形を用いる。

よって、changed を用いるのならば、When I visited …, I found that it had completely changed … とする。

「昔の面影をとどめていなかった」は「それは昔の街の姿ではなかった」

と考えて、it was not [no longer] what it had been [what it used to be] と

する。この場合も、「昔の姿」は「訪れた時より以前の姿」なので、過去完了形を用いるか、used to を用いる。なお、「すっかり変わってしまし」

の部分はそのまま英語にしなくても、no longer などを使えば十分に通じる。

ここに登場する <what + S + be> 「～の姿」は大切な表現なので、暗記すること。

(例 1) what the world ought to be

「世界のあるべき姿」 → 「世界の理想像」



(例2) Tom is different from what he used to be.

「トムは昔の彼と違う」

また、答えの英文では、日本文にない I found that ~ 「~がわかる」が追加されている。これは「私の意見」であることを強調するためだが、なくとも十分通じるし、 I realized that ~も可。

「~を訪れる」は visit ~だが、これは目的語を必要とする他動詞。Go to ~と違い、visit to ~とはできない。この間違いは多いので、注意。

ただし、visit を名詞として用いる場合は、visit to ~の形で使う。

(例) This is my first visit to Kobe.

「神戸はこれが初めてだ」

「~年ぶり」は<for the first time in ~ years>を用いる。もし「10年ぶり」ならば for the first time in ten years 「10年間で初めて」と言う。「久しぶり」なら「多くの年月の中で初めて」と考えて、for the first time in (many) years とする。なお、あいさつで「久しぶり」は、It's been a long time since we last met. という。「10年ぶりの大雨」という場合には for the first time の代わりに最上級を用いて、the heaviest rain in ten years とする。

30) 昨日は数学の予習に追われて 4 時まで起きていたので、とても眠い。

30) I stayed up till four last night preparing for the math lesson, so I feel very sleepy.

「～しながら…時まで起きていた」の時制は？「昨日は」と過去の副詞があるから過去時制を用いる。「～しながら起きている」は<stay up till …(V)ing>を用いる。Get up なら「ベッドから出る」だが、stay up は「ベッドから出ている状態にいる」＝「起きている」の意味。なお sit up は文字通り「座った状態で起きている」→「(看病などで) 起きている」「(患者が) ベッドの上で上半身を起こして座っている」という意味になるので、この文の場合は使えない。

「～しながら」というときに with (V)ing としてしまう人がいるが、それは間違い。～ing の分詞構文を使うか、while ~(V)ing を使うかのどちらかである。

(例) Don't talk into your cell phone while driving.

「車の運転をしながら携帯電話で話すな」

「～の予習をする」→「～の準備をする」と考えれば、preparing for ～  
が使える。また「数学の予習」は、「数学の講義のための準備」だから、  
the math lesson [class]とする。もしその講義が2時限以上ある場合は複  
数形の lessons を使ってもよい。

「～までずっと」は till ～あるいは until ～を用いる。Until のつづりを  
untill としないように気を付けること。また by ～「～までには」とは全  
く違う語なので、till / until 「までずっと」と by 「までには」と口ずさん  
でしっかり区別すること。

「とても眠い」は feel very sleepy でよい。